

「ポリオ」と「ポリオの予防接種」について

- ポリオの予防接種を再開します。
- ポリオの予防接種は、お子さんが感染することを未然に予防するとともにポリオ流行を防ぐために非常に重要です。
- ポリオとポリオの予防接種についてよく理解し、予防接種を受けて下さい

この春のポリオの予防接種の見合わせと、この度の再開について

この春、ある県において脳炎で亡くなったり、麻痺や髄膜炎の症状があらわれたという報告がありました。お二人とも、同じ製品番号のポリオワクチンによる予防接種を受けていたため、厚生省では、念のため予防接種を見合わせ、地元の県や医師会の参加を得た調査団を編成してワクチンに異常がないか調査をしました。また、製造過程の再チェックも行いました。その結果、亡くなった方の原因はワクチンとの関連がないということ、もう一人の方も関連性が薄いということ、ワクチンの品質には異常はないことが明らかになりました。そのため、ポリオの予防接種を再開することとしました。また、厚生省では、ポリオの予防接種の再開にあたって、ポリオとポリオの予防接種について、皆様によく理解していただくため、専門家による委員会を作り、新たに情報の提供を行うこととしました。

ポリオとは？ 予防接種の必要性とは？

- ポリオは、感染した人の便に排出されたポリオウイルスが口に入ることによって、人から人へと感染します。日本でも昭和35年には5,600人以上の患者が報告されましたが、ワクチンの導入により制圧に成功しました。
- ポリオウイルスに感染しても大部分の人には症状はあらわれません（不顕性感染（ふけんせいかんせん）と言います）。しかし、感染した人の数百人から1,000人に1人程度に、手や足の麻痺があらわれることがあります。
- 近年、日本では患者の発生はありません。しかし、海外ではまだポリオが流行している地域があり、ウイルスが国内に持ち込まれて感染する可能性があります。従って、予防接種を続ける必要があります。

予防接種によってポリオに対する免疫（抵抗力）をつけます。

- ポリオの予防接種は、毒性を弱くしたウイルスが入ったワクチン（生ワクチン）を飲む方法で行われます。生後3か月から18か月（1歳6か月）の間に6週間以上の間隔をおいて2回行うことが望ましい方法です。
- お子さんのポリオの予防接種は、法律に基づいて市町村が実施します。費用（の一部：自治体の状況により書き分けること）は公費で負担されています。
- 例年、対象となるお子さんの95%以上が予防接種を受けています。ポリオの予防接種は、最も安全で確実な効果があるワクチンの1つです。

ポリオの予防接種を受けた人(440万回に1回*程度)、予防接種を受けた人の周囲の人(580万回に1回*程度)に、ポリオと同じような麻痺を生じる可能性があります。

* 20年間の日本国内のデータから計算した数字です。

- ポリオワクチン（生ワクチン）は、症状が出ないように毒性を弱めたポリオウイルスから作られています。
- ワクチンを作る際には、このウイルスの毒性が強くなっていないことを確認していますが、このウイルス

小須戸町産地大感謝祭

町の特産品、ニットや農産物・花き花木を日頃のご愛顧に感謝し、格安価格でご提供。好評の大抽選会や花のオークションや、2000年に記念し、2000人大抽選会、2000人鍋（共に2日間）も行います。

期 日 10月21日（土）・22日（日）
午前9時から午後4時まで
会 場 花とみどりのシンボルゾーン

※会場隣接のJA倉庫でJAまつりも同日開催します。

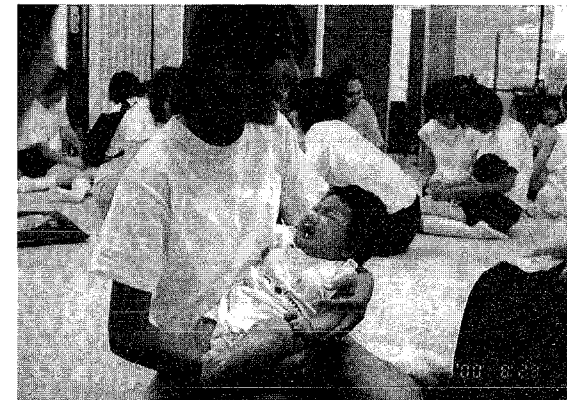


赤ちゃんってやわらかくてかわいいネ！

ふれあい体験を行いました

8月29日3・4ヵ月児健診の場で、中学生14人が、赤ちゃんとふれあい体験をしました。

実際に赤ちゃんを抱っこさせてもらったり、お母さんから子育ての話をきかせてもらうことで生命の尊さや親の愛情について感じた様子でした。将来、自分がお母さんになった時、役に立てられたらいいなあと言う感想も出されました。



が腸の中で増える過程で毒性が強まる場合があります。そのため、きわめてまれにポリオと同じような症状があらわれる場合があります。症状が出た人には大変不幸なことです。これらの健康障害は、生ワクチンによって免疫をつけるしくみを考えると避けられないものといわざるを得ません。

- また、体の免疫機能が弱っている人は、毒性を弱めたウイルスでも麻痺を起こす場合があります。このような健康障害を避けるため、予防接種を受けられるお子さんの体調等の確認や、より安全なワクチンの開発の努力が続けられています。
- 予防接種を受けた後、便には1か月程度ワクチンのウイルスが出ています。ポリオに対する免疫のない人（予防接種を受けていない子どもやご両親など）の口に入っても多くの場合は不顕性感染となり症状はあらわれません。しかし、きわめてまれにポリオと同じような症状が出る場合があります。
- 麻痺症状があらわれることを少しでも減少するために、おむつ交換をした後等は、便の処理をきちんと行い、きちんと手洗いをしましょう。

より安心して予防接種を受けていただくために。

- ポリオやポリオの予防接種について十分に理解して、予防接種を受けて下さい。
- 体調や体質などについて、受ける前には必ず医師の診察を受けていただく必要があります。気になることがある場合は、必ず相談して下さい。
- 免疫機能が弱っている人、あるいは現在かかっている病気によっては予防接種を受けられないことがあります。